

Statsraad Lehmkuhl 号乗船記・ホーコンさん歓迎会

1. 乗船記前史

2014年7月24日～27日ベルゲン(Norway 第2の都市)で The Tall Ships Races 2014 Bergen が開催された。

前年2013年9月にNorwayのシーシャンティグループ”Storm Weather Shanty Choir(SWSC):Haakon Vatleさんがリーダー”が日本公演の折に、当合唱団の練習見学に来訪したのがきっかけで、この帆船レースの中日に開催される音楽フェスティバルに招待されることとなった。

成田発7月23日28日帰国、ベルゲン滞在4日間の慌ただしいツアーではあったが、2ステージの演奏の他、地元船主協会の合唱や、SWSCのステージに参加させてもらって、会場のメインステージで熱唱。帆船レースの参加者やベルゲン市民から拍手喝采を受けた。

当合唱団からは30名参加。

(故白石キャプテン、団員のご家族含む)中日にはフィヨルド見



船主協会に招かれて

学も敢行、短いながらも北欧の夏を堪能した。フェスティバルの最終日には市長主催のパーティーが開催されて、招待された会場が Statsraad

Lehmkuhl 号。市長自ら合唱団員に市の

ピンバッジを授与され各自胸につけてもらった。返礼として、船

の上で Millom Bakker を歌いこども拍手喝采を受けた。

2. 乗船記前段

Statsraad Lehmkuhl (以下 SL)号は国連の「持続可能な開発のための国連の海洋科学の10年」支援のため One Ocean Expedition として19ヶ月かけでの世界一周航海を実施。9月12



東京湾に入港する Statsraad Lehmkuhl 号 (近森さん撮影)



2014. 7月ベルゲンでの公演

日～15日の間横浜港に寄港。情報は1年以上前に、ベルゲンでお世話になった Ayako さんから聞いていたが、横浜市港湾局に聞いても帆船日本丸記念財団に聞いても具体的なことはわからず。ノルウェー大使館への問い合わせでようやく来日は間違いのないことがわかったので、準備開始。別ルートでホーコンさんとようやく連絡が取れ、山路団長が10日朝にホーコンさんと面談。その結果13日に有志が乗船させてもらえることとなった。

注: Ayako さんのダンナは Hansen さんで、何度も来日し、合唱団有志懇親会にも参加している。

3. 9月12日

SL号ではノルウェー大使館主催の Open Ship が企画されていて、船上でセミナーを受けられる。ネット申込で誰でも乗船可能となっていた。団員も数名が応募したが、即座に満員となったようだ。

SLは9月12日10:00に横浜港9号岸壁(ハンマーヘッド)に着岸。小永井、木村、岩尾の3名がお出迎え。ホーコンさんにもご挨拶、翌日の乗船をお願いします。



ハンマーヘッドに停泊する Statsraad Lehmkuhl 号

4. 9月13日第一陣

伊藤、木村、小永井、佐藤、波多野、原田、丸山隆、鶴野の8名が、ハンマーヘッドに集合。帆船日本丸友の会の方々も12時のオープンシップに申し込んでいたようだ。

12時に受付のテントへ。ホーコンさんの姿はない。受付はセキュリティが厳しく、オープンシップ申込の名簿に名前が無いと通してくれない。押し問答の末、登録済みの鶴野がゲートを通して、船上のホーコンさんにご挨拶。ゲートまで来てもらって漸く全員が乗船できた。



船首にて

2014年にベルゲンに行ったメンバーはホーコンさんと再会交歓。船上は大勢のオープンシップ参加者とクルーで賑わう中を、ホーコンさんの案内で簡単な船内ツアー。ベルゲンでのフェスティバルの話など

を交わして、船首では「あの時はここで South Australia を歌った。クルーはヤードに登っていた」など会話。そのうちそうらん節の話になり、「ここで歌おう」。急遽クルー、オープンシップのお客さんの前でご披露となった。



そうらん節をご披露

約一時間の乗船だったが、ホーコンさんは次の予定があり、20日の再会を約束して、第一陣の乗船見学は終了。

5. 9月13日第二陣

正式にオープンシップに申し込んでいたメンバーは岡本、木村、鈴木昭、西山、廣原、鶴野。第一陣解散後に14時からの第二陣メンバーとすれ違った鶴野は合流し、再度乗船。

第二陣のメンバーは真面目に水中探査機などのセミナーを聞いている。ご褒美にピンバッジをもらった。15:00でオープンシップは終了なので、船上は比較的すいていた。

Statsraad Lehmkuhl 号を
海から眺める

今日は岩間市民プラザで18:00から練習。時間がたっぷりある。

地元の情報に詳しい西山さんの提案でSEA BASSに乗ることにする。ハンマーヘッドが乗船場。横浜駅東口(そごう裏)まで約10分の船旅。料金¥700。ハンマーヘッドを出るとすぐに、SL号を海側から眺めることができた。帆船日本丸は残念ながら見えなかったが、みなとみらいの高層建築群の海からの景観は、シドニーや香港と比較しても遜色のないものだった。



SEA BASSに乗って

下船してもまだ時間に余裕があり、東口地下街ポルタで休憩。これからの練習に備えて喉に潤いを補給したのだった。

6. 歓迎の歌

ホーコンさんの主宰するSWSCの持ち歌に「Souran-Bushi」があるので、「そうらん節」を一緒に歌えば十分と省エネ対応を考えていたが、「Millom Bakkar」をぜひやりたいという声上がり、すぐに有志によって譜面や音源が準備・配信され、瞬間に準備が整った。そして13日に練習し、19日の自主練習でもブラッシュアップした。

サプライズ効果を上げるため、当日のホーコンさんをお連れ

する時間は、6:15 きちんと設定された。山路団長がホテルからエスコート。野毛や福富町を歩いて案内し、技能会館の外で時間調整をして、定刻に登場。

サプライズは成功した。その後ホーコンさんはバリ



トンパートで「そうらん節」を歌い、また自席で聞き、練習は予定の7:50に終了した。

7. 地下の「匠」にて



これぞシーシャンティ

大勢の参加を得て、貸切の匠で、飲み、食べ、話し、歌った。ホーコンさんがリードする「Haul Away Joe」は、団員ホームページに動画がアップされているので、ご参照ください。

8. プレゼント



合唱団Tシャツと浮世絵(コピー)DVDをプレゼント



合唱団からは、「合唱団Tシャツ」「第26回定期演奏会DVD」

「浮世絵セット(波多野さんご提供)」を贈呈した。

ホーコンさんからは、SWSCのCDを2枚と、Botanical Ginをいただいた。ジンは納会まで取っておき、数滴ずつ全員で味わいたい。

(鶴野記・山路補筆)



ホーコンさんからの Botanical Gin